
我孫子市男女共同参画に関する調査 報告書

平成30年3月

我孫子市

目 次

第1章 調査の概要

1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査方法	1
4	調査実施時期	1
5	回収結果	1
6	報告書の表記について	1
7	有効回収の内訳	2

第2章 調査結果の分析

1	女性が増えるとよい職業	3
2	各分野での男女の平等感	4
3	女性が職業を持つことについての意識	6
4	「夫は外で働き、妻は家庭を守べきである」 という考えについての意識	7
5	仕事、家庭生活、地域・個人の生活の バランスについて理想と現実	8
6	休暇制度の利用しやすさ	9
7	夫と妻の家事分担	10
8	仕事、家庭生活、地域活動を男女が ともに担っていくのに大切なこと	11
9	防災における男女共同参画の視点	13
10	DV（ドメスティック・バイオレンス）についての認識	14
11	DV等の対策で必要なこと	16
12	男女共同参画に関する用語の周知度	17
13	市の取り組みについての周知度	18
14	市が取り組んでいくべきこと	18

第1章 調査の概要

1 調査目的

我孫子市における男女共同参画に関する市民の意識、実態について把握し、今後の計画策定及び男女共同参画施策全般を推進するにあたっての基礎資料とする。

2 調査対象

平成29年11月20日現在で住民基本台帳からの無作為抽出による、我孫子市内在住18歳以上の男女各1,500人。

3 調査方法

郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送により回収。

4 調査実施時期

平成29年11月28日～12月11日（平成30年1月17日到着分まで結果に反映）

5 回収結果

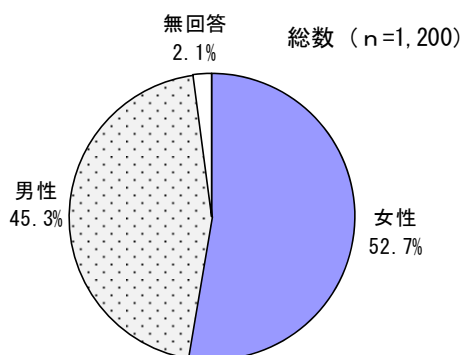
- (1) 発送数：3,000通
 - (2) 到達数：2,990通（発送数より郵便局及び本人以外からの返送分を除いた数）
 - (3) 回収数：1,203通
 - (4) 有効回収数：1,200通（回収数より全て白紙分を除いた数）
- 有効回収率：(4)/(2)×100=40.1（%）

6 報告書の表記について

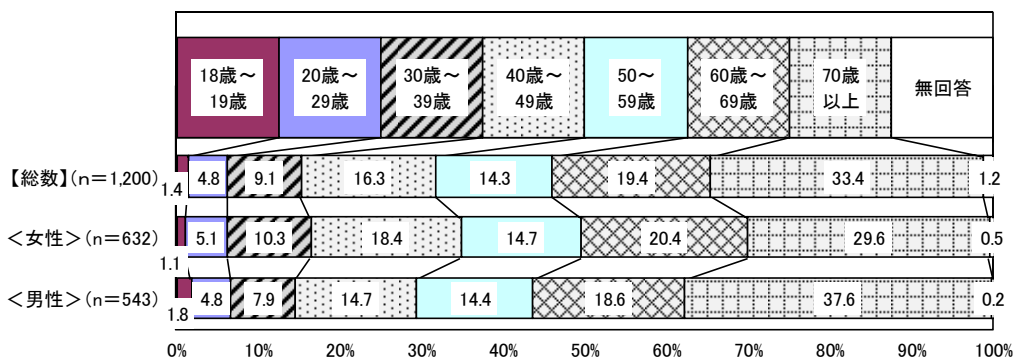
- (1) グラフ中の「n」(net)は、その質問への回答者数を表す。
- (2) 調査結果の比率はすべて百分比（%）で表しており、その質問の回答者数（n）を基数として、小数点第2位を四捨五入して算出している。このため、各選択肢の回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答形式の場合、各選択肢の回答比率の合計は100%を超える。
- (4) 性別・年齢別についての問いに対し「無回答」があったため、性別・年齢別の各結果において、それぞれの「n」の合計は総数の「n」と一致しない。
- (5) 質問及び回答の選択肢の表記は、調査票における表記そのものではなく、意味を損なわない程度に簡略化した表現を用いた場合がある。

7 有効回収の内訳

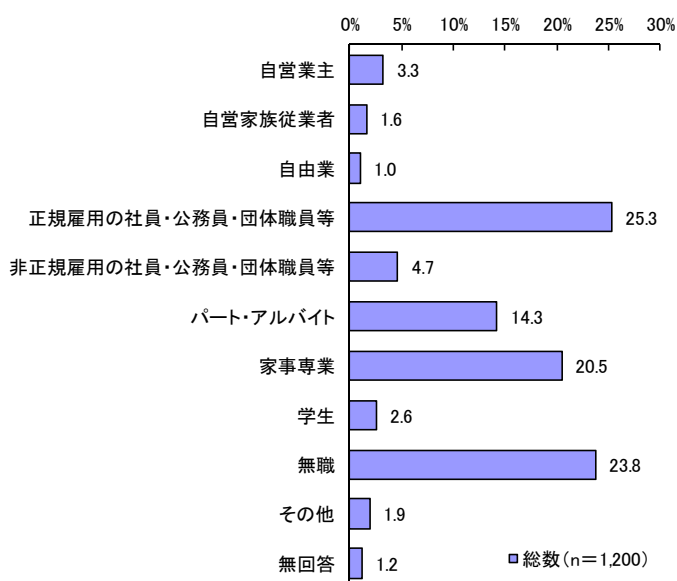
【性別】



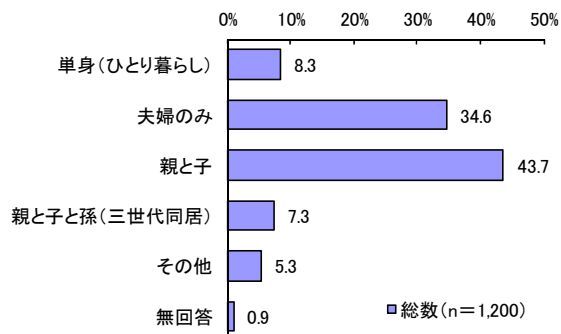
【年齢】



【職業】



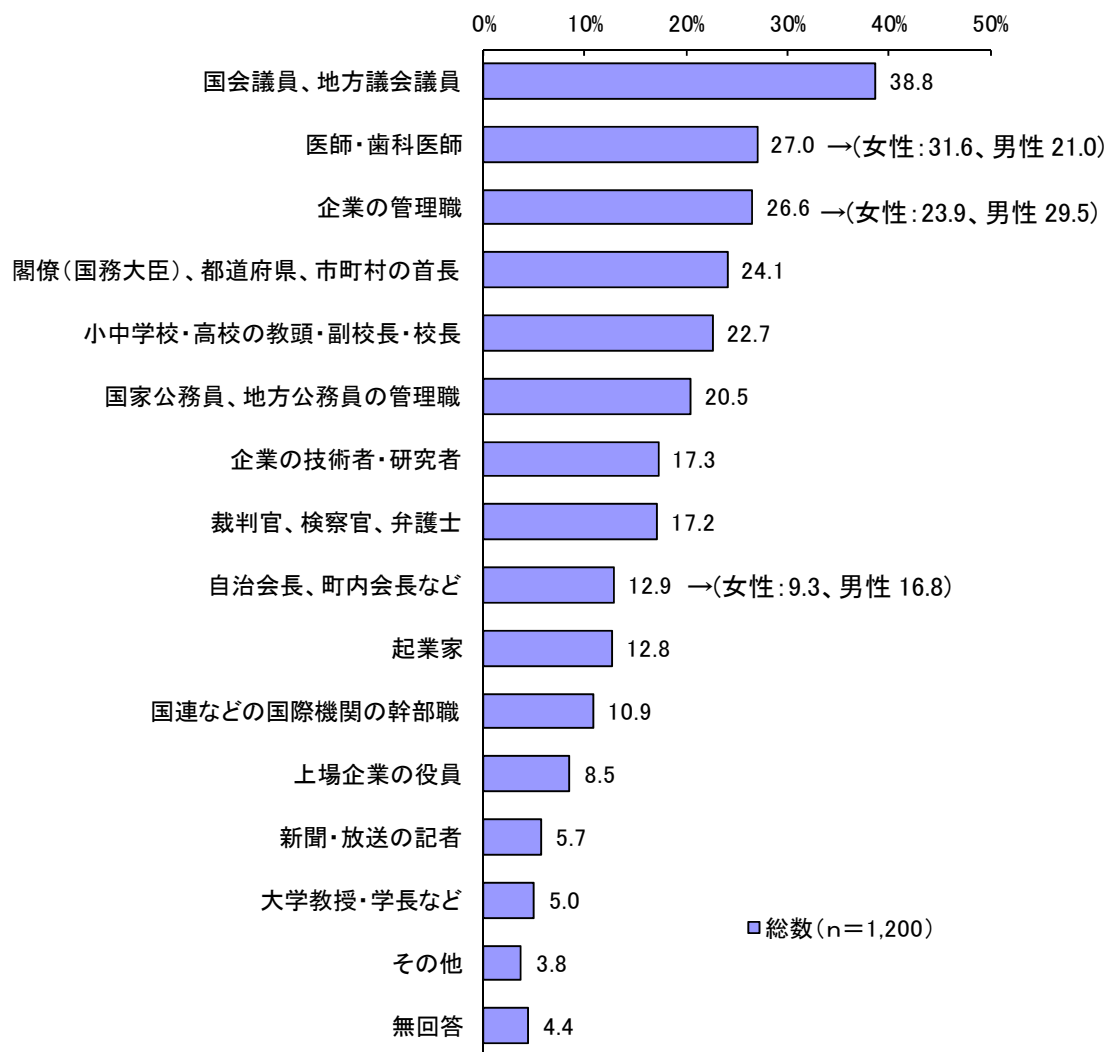
【世帯構成】



第2章 調査結果の分析

1 女性が増えるとよい職業

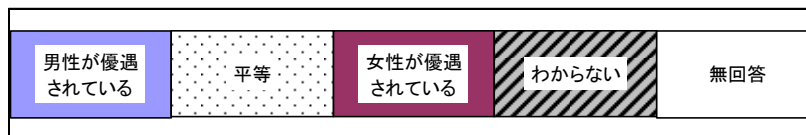
問10 女性が増えるとよい職業や役職について次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



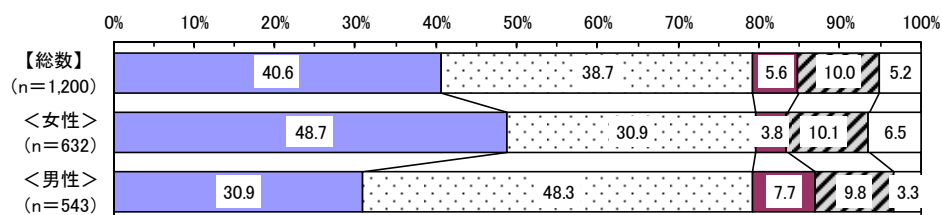
女性が増えるとよい職業や役職については、「国會議員、地方議会議員」が38.8%と最も高くなっている。男女の回答で5ポイント以上差があったものは「医師・歯科医師」、「企業の管理職」、「自治会長、町内会長など」であった。女性が男性を上回ったのは「医師・歯科医師」で、その差は10.6ポイント。逆に、男性が女性を上回ったのは「自治会長、町内会長など」「企業の管理職」で、その差はそれぞれ7.5ポイント、5.6ポイントとなった。

2 各分野での男女の平等感

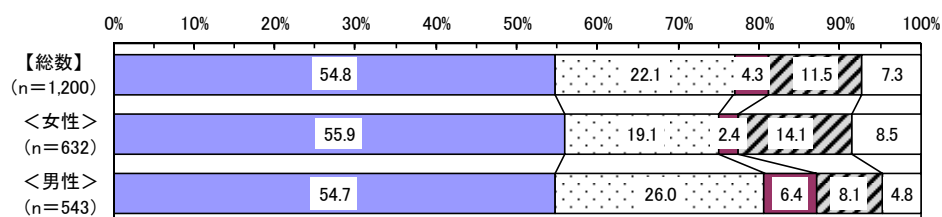
問11 あなたは、次の分野で男女は平等になっていると思いますか。ア～ケのそれぞれ1つを選び番号を○で囲んでください。



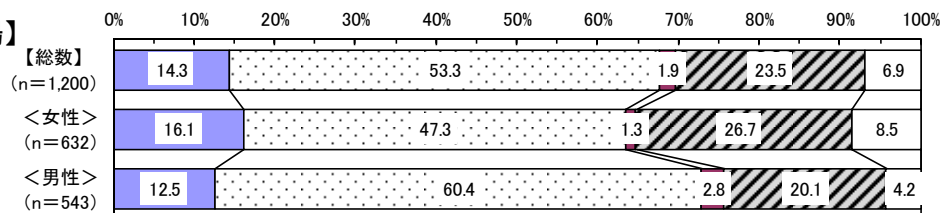
【ア 家庭生活】



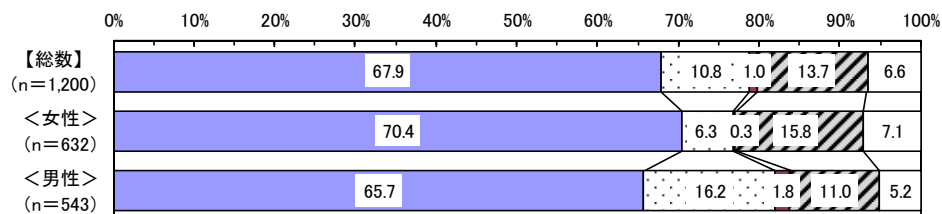
【イ 職場】



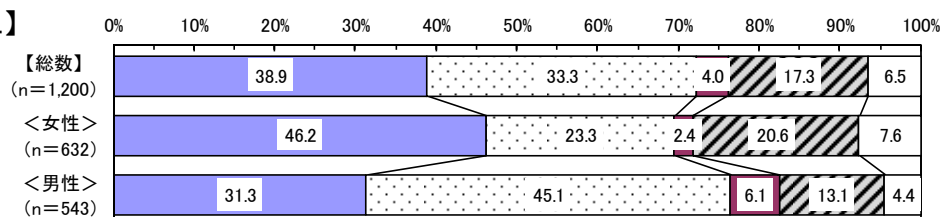
【ウ 学校教育の場】



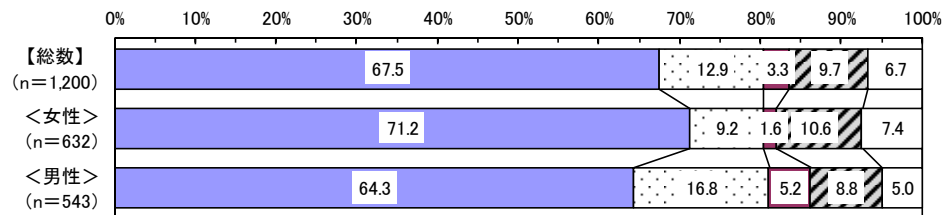
【エ 政治の場】



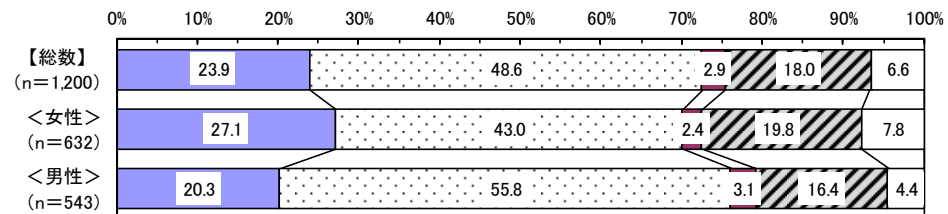
【オ 法律や制度上】



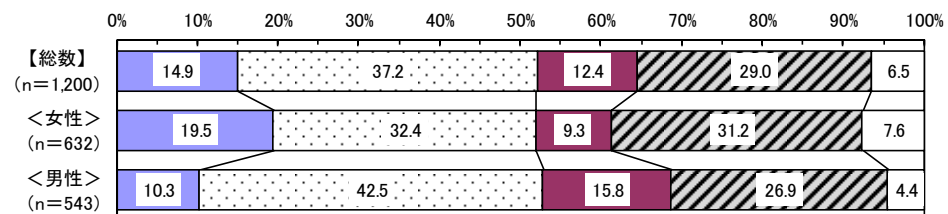
【カ 社会通念、
慣習、しきたり】



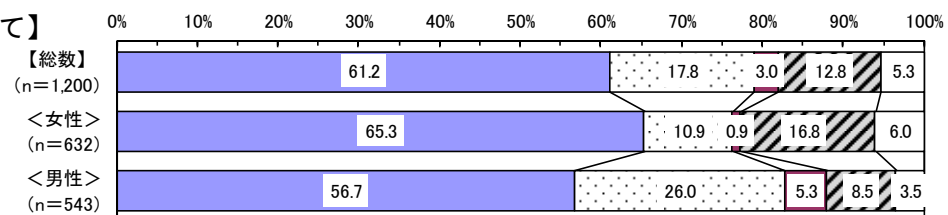
【キ 自治会など
の地域活動】



【ク P T A 活動】



【ケ 社会全体として】



分野ごとの男女の平等感については、「男性が優遇されている」と回答した割合は、全分野において女性が男性を上回った。男女の開きが特に大きかった分野は「ア 家庭生活」「オ 法律や制度上」で、それぞれ 17.8 ポイント、14.9 ポイントの差となった。

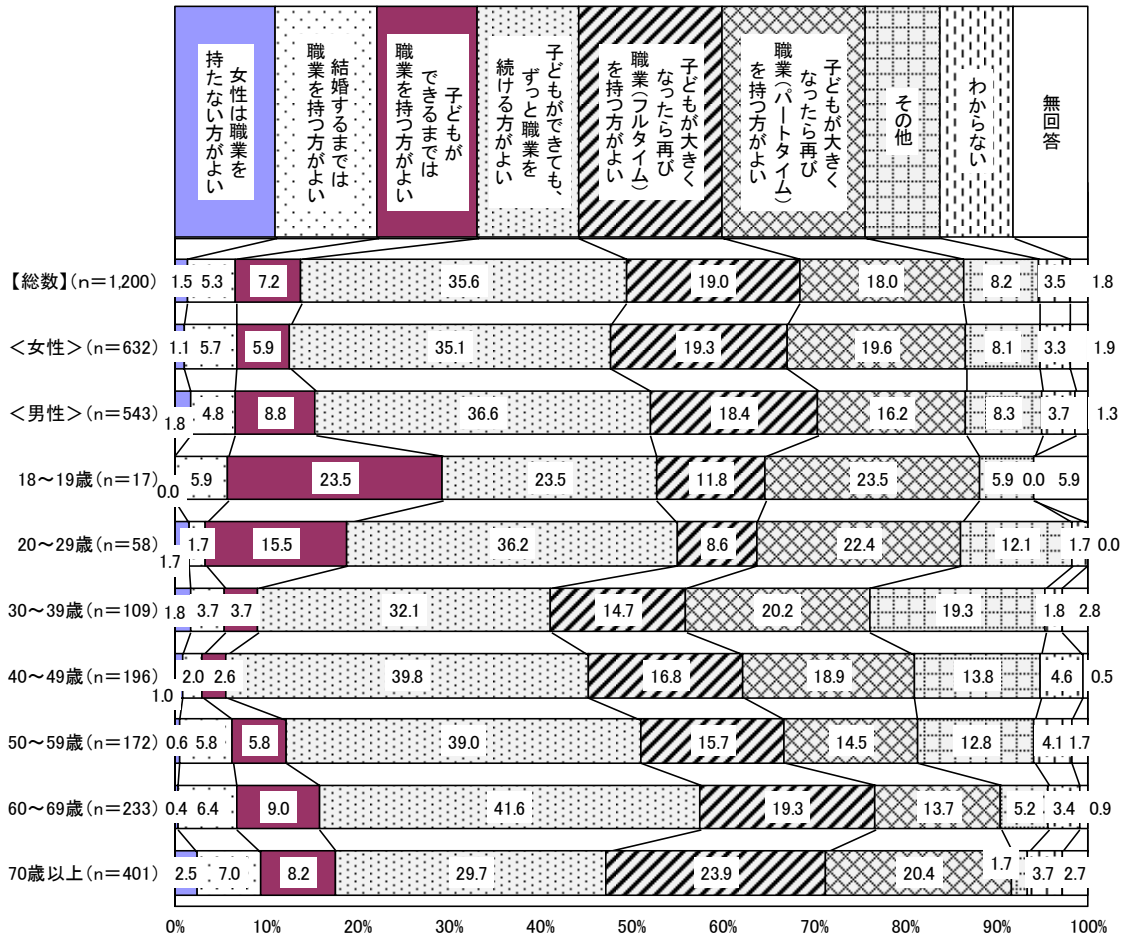
逆に、「平等」と回答した割合は、全分野において男性が女性を上回った。男女の開きが特に大きかった分野は「オ 法律や制度上」「ア 家庭生活」で、それぞれ 21.8 ポイント、17.4 ポイントの差となった。

「男性が優遇されている」とする割合が高かった分野は「エ 政治の場」「カ 社会通念、慣習、しきたり」で、それぞれ 67.9%、67.5%となった。いずれにおいても女性の 7 割以上が「男性が優遇されている」としている。

一方、「平等」が高かった分野は「ウ 学校教育の場」「キ 自治会などの地域活動」で、それぞれ 53.3%、48.6%となった。いずれにおいても男女ともに「平等」が「男性が優遇されている」を上回っている。

3 女性が職業を持つことについての意識

問12 女性が働くことについて、あなたはどのように思いますか。次から1つ選び番号を○で囲んでください。



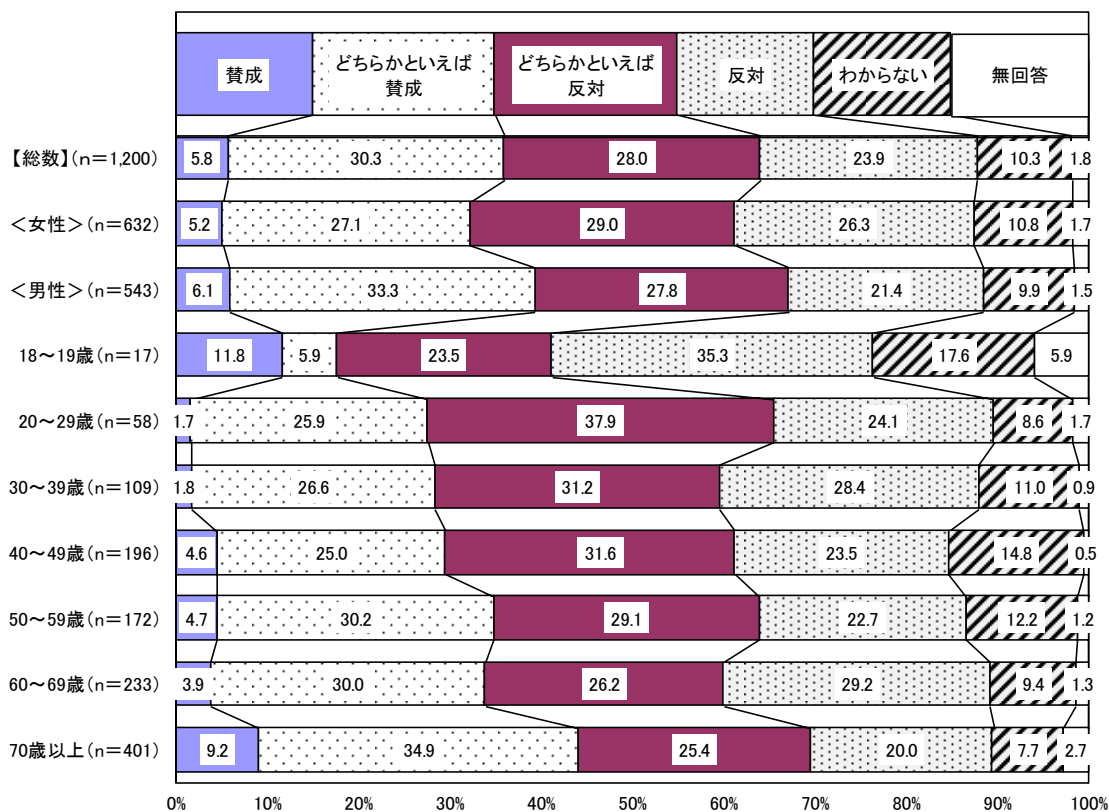
女性が職業を持つことに対する意識については、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」とする回答は35.6%で、「女性には職業を持たない方がよい」「結婚するまでは職業を持つ方がよい」「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」の合計14.0%を大きく上回った。一方、「子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」とする回答もフルタイム、パートタイムを合わせて37.0%あり、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」を若干上回った。

男女別に見ると、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」とする男性が8.8%で、女性の5.9%を上回るが、全体に占めるウエイトは高くない。これ以外の項目では男女間に目立った差はないものの、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では男性が女性を上回り、「子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」ではフルタイム、パートタイムのいずれでも女性が男性を上回った。

年齢層別に見ると、40歳代から60歳代では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」とした割合が高く、60歳代では4割を超えている。一方、10歳代では「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」が23.5%となったが、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」「子どもが大きくなったら再び職業(パートタイム)を持つ方がよい」と同割合で並んだ。「女性には職業を持たない方がよい」は各年齢層を通じて数パーセントと低く、最も高い70歳以上でも2.5%にとどまった。

4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての意識

問13 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、次から1つ選び、番号を○で囲んでください。



「夫は外で働き、妻が家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」「どちらかといえば反対」とする回答が合わせて51.9%、「賛成」「どちらかといえば賛成」とする回答が合わせて36.1%となり、反対が賛成を大きく上回った。

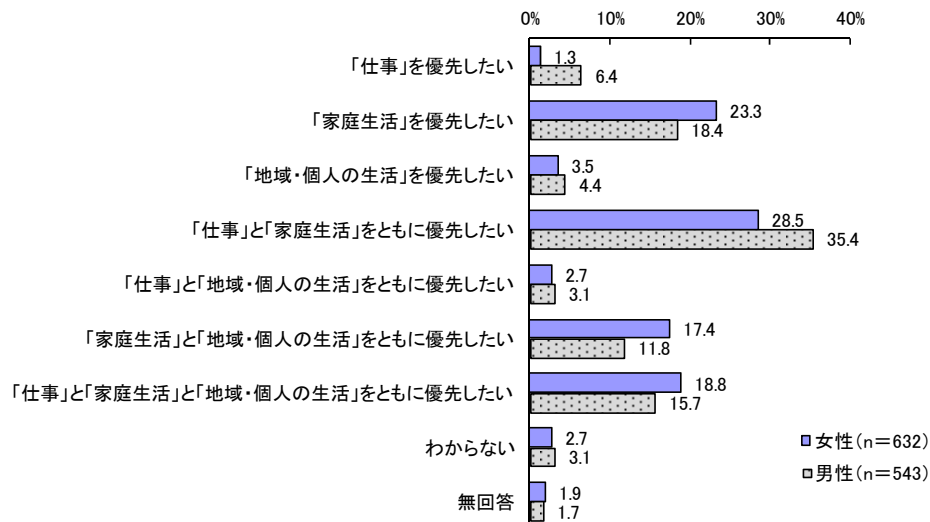
「反対」「どちらかといえば反対」について、男女別に見ると、女性が55.3%、男性が49.2%と、女性が男性を上回った。年齢層別に見ると、10歳代で58.8%、20歳代で62.0%、30歳代で59.6%と6割前後で、比較的若い世代で高くなっている。

一方、「賛成」「どちらかといえば賛成」について、年齢層別に見ると、最も高いのは70歳以上の44.1%だった。しかし、この年代の「反対」「どちらかといえば反対」は45.4%であり、全年齢層を通じて「賛成」「どちらかといえば賛成」を「反対」「どちらかといえば反対」が上回った。

5 仕事、家庭生活、地域・個人の生活のバランスについて理想と現実

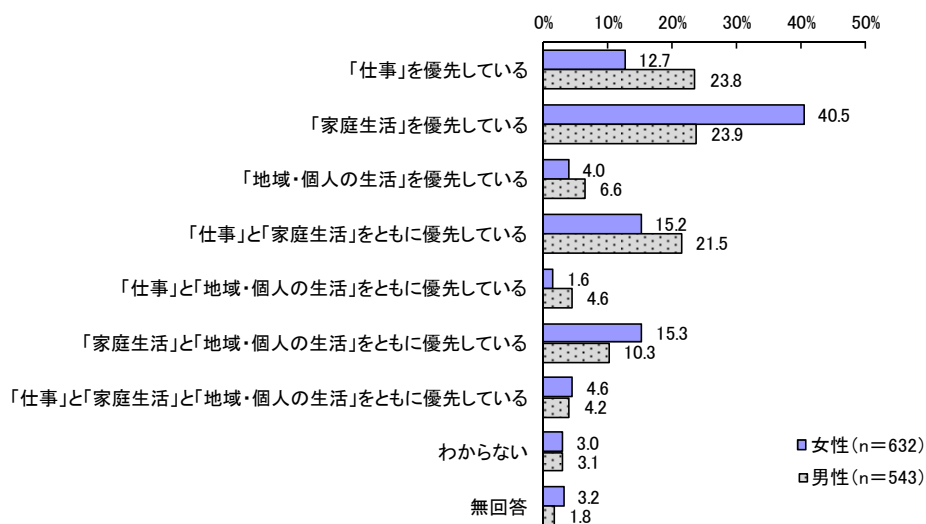
問14 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）についてお伺いします。

(1) 優先度について、あなたの希望に近いものを次から1つ選び番号を○で囲んでください。



希望する優先度については、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」とする回答が男女とも最も多かった。『仕事』を優先したいは、女性が1.3%と少なく、男性は女性より多いものの6.4%にとどまっている。また、2割近い女性が『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先させたい」と答えた。

(2) あなたの現実・現状に最も近いもの次から1つ選び番号を○で囲んでください。

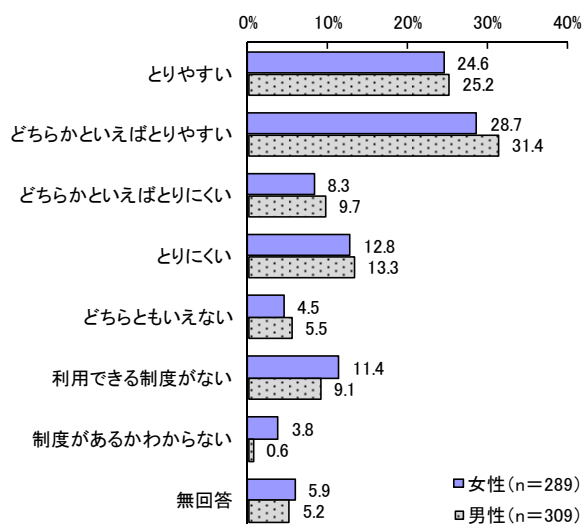


実際の優先度については、約4割の女性が『家庭生活』を優先している」と回答した。(1)において男女とも最も多くが『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいを希望するとしたが、これを現実・現状に最も近いと回答したのは男性が21.5%で、女性を6.3ポイント上回っている。『仕事』と『地域・個人の生活』を優先している』『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先しているは、男女ともに5%以下となった。

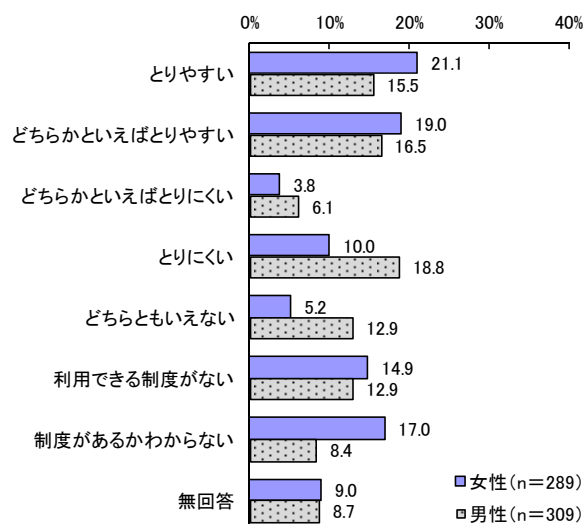
6 休暇制度の利用しやすさ

問15 (働いている方) あなたの職場は、有給休暇、育児・介護休業がとりにやすいですか。ア～ウのそれぞれ1つを選び番号を○で囲んでください。

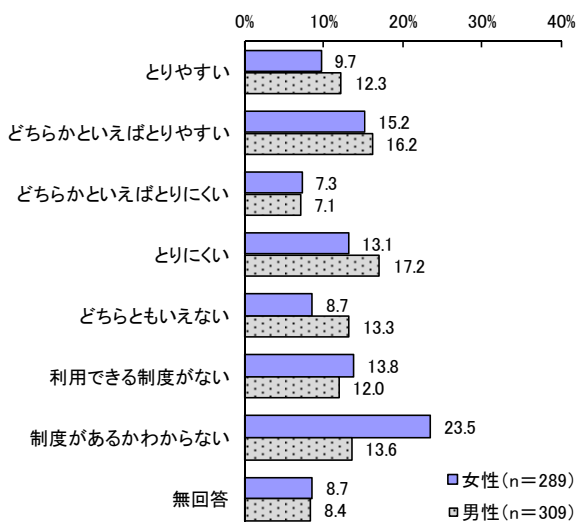
【ア 有給休暇】



【イ 育児休業】



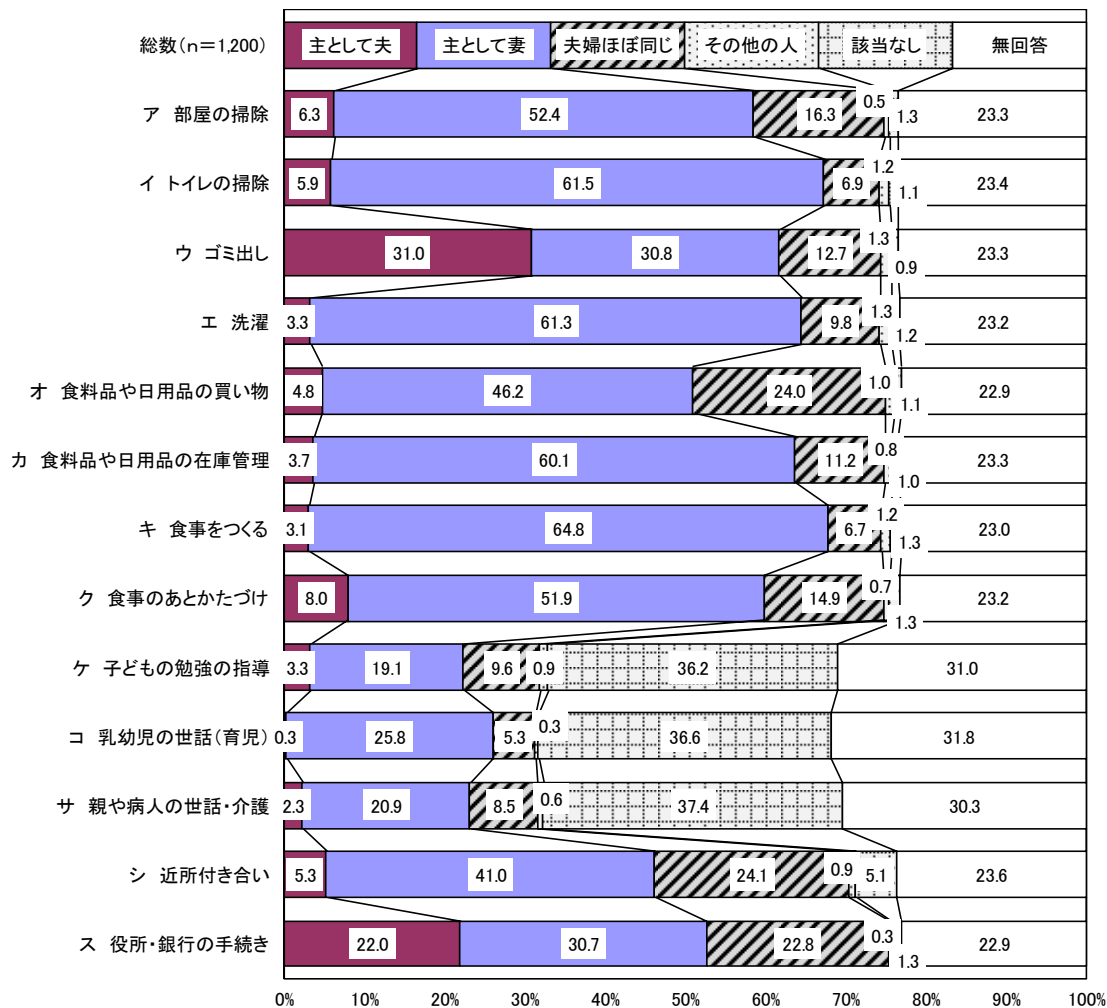
【ウ 介護休業】



休暇制度については、「とりやすい」「どちらかといえばとりやすい」の合計は、「ア 有給休暇」では男女とも5割を超え、「イ 育児休業」では女性約4割、男性約3割となった。一方で、「利用できる制度がない」との回答は、「ア 有給休暇」「イ 育児休業」「ウ 介護休業」のいずれにおいても男女ともに約1割あった。また「制度があるかどうかかわからない」と回答した女性の割合は、「イ 育児休業」で17.0%、「ウ 介護休業」で23.5%と比較的高くなっている。

7 夫と妻の家事分担

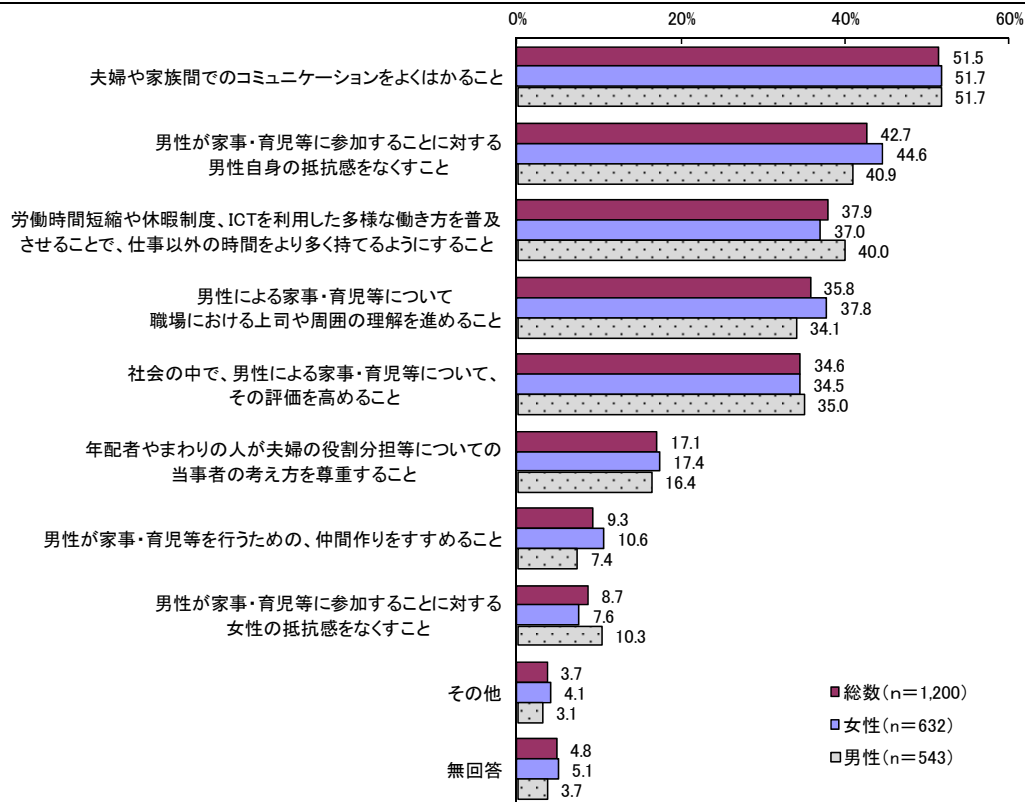
問16 家庭での家事分担はどのようになっていますか。ア～スのそれぞれ1つを選び番号を○で囲んでください。



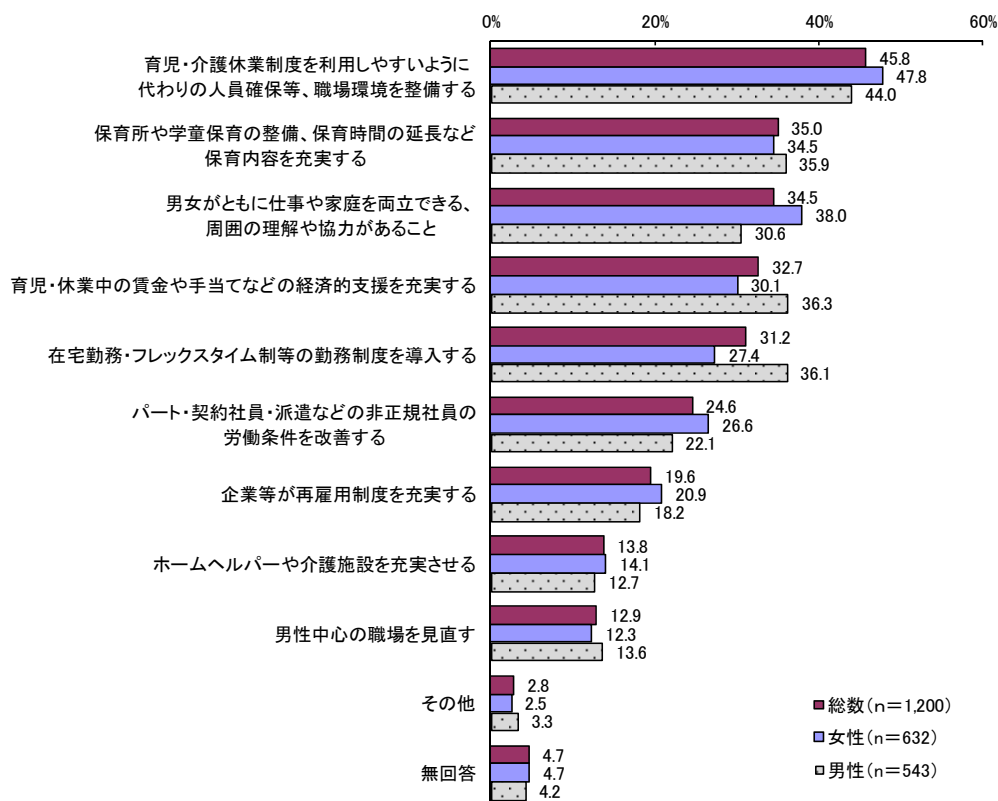
家事分担の現状については、「主として妻」とする回答が総じて他を大きく上回った。その中で「主として夫」とする回答が最も多かった家事は「ゴミ出し」で、その割合は「主として妻」の30.8%と拮抗する31.0%となった。「夫婦ほぼ同じ」では、「近所付き合い」の24.1%が最も高く、次いで「食料品や日用品の買い物」の24.0%となった。

8 仕事、家庭生活、地域活動を男女がともに担っていくのに大切なこと

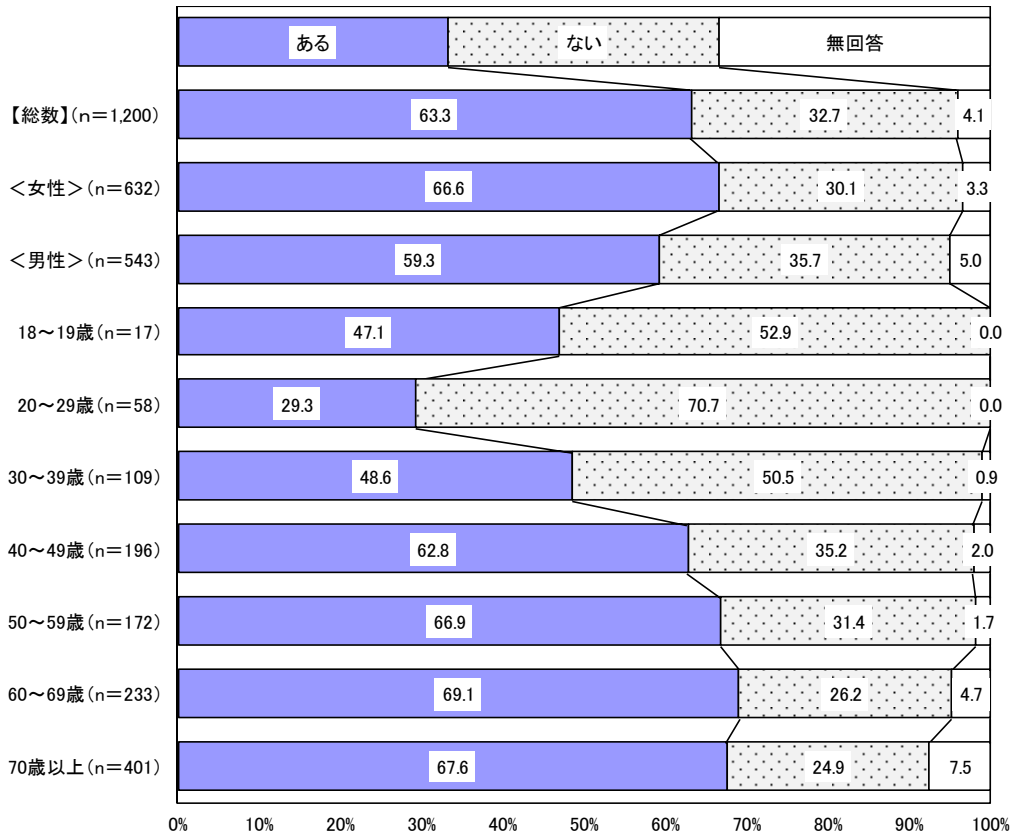
問17 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



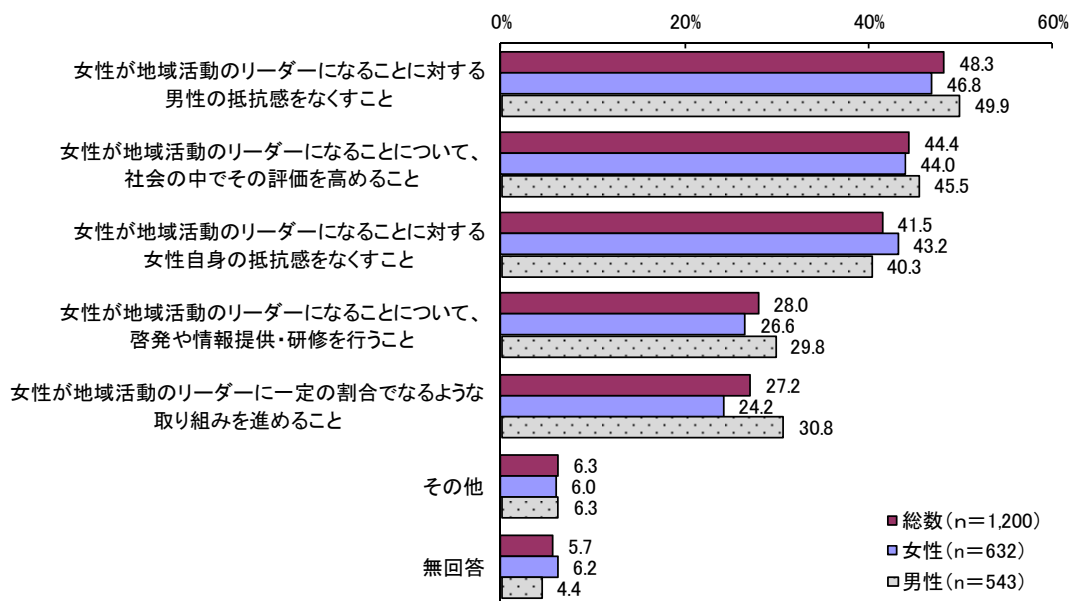
問18 あなたは、男女とも職業生活と家庭生活を両立させていくために、どのようなことが必要だと思いますか。次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



問 1 9 あなたは地域の活動に参加したことがありますか。

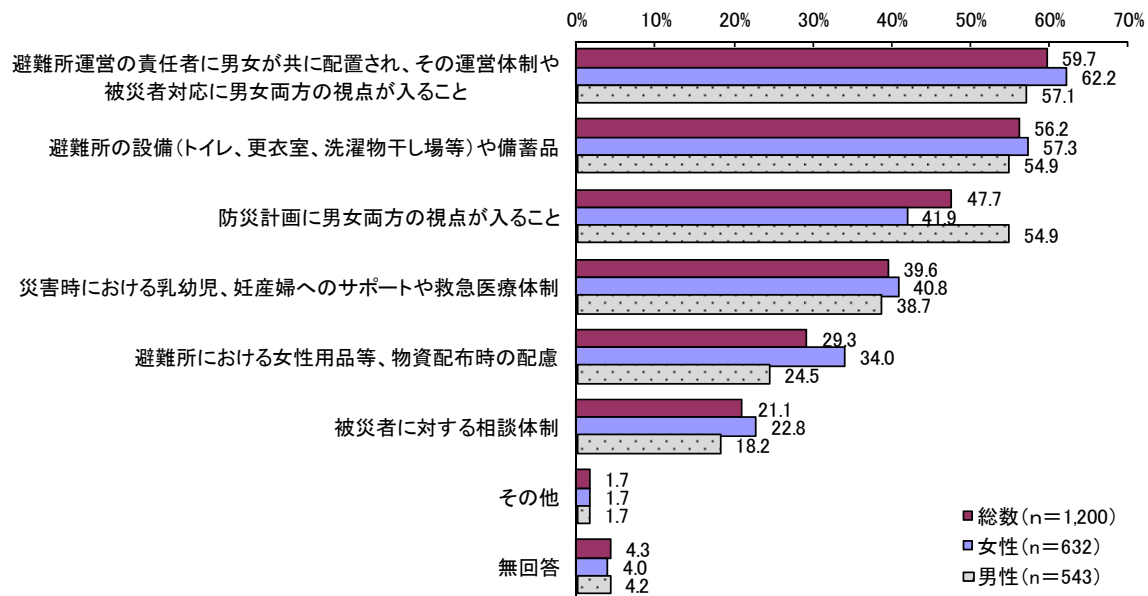


問 2 0 自治会長やPTA会長等、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要と思いますか。次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



9 防災における男女共同参画の視点

問 2 1 防災や災害対策について、男女双方に配慮した対応が必要だと思うことを次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



問 17～問 21 (p11～13) について

(問 17) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについては、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」とする回答が5割を超え、次いで「男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が4割を超えた。

(問 18) 男女とも職業生活と家庭生活を両立させていくために必要なことについては、「育児・介護休業制度を利用しやすいように代替りの人員確保等、職場環境を整備する」が女性47.8%、男性44.0%で、男女とも最も高くなった。2番目に高かったのは、女性では「男女がともに仕事や家庭を両立できる、周囲の理解や協力があること」で、38.0%。男性では「育児・休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」で、36.3%だった。

(問 19) 地域活動への参加については、全体で6割以上が「ある」と答えている。年齢層別で見ると、最も高いのは60歳代で69.1%、次いで70歳以上の67.6%である。逆に、20歳代では「ない」の回答が7割を超えた。

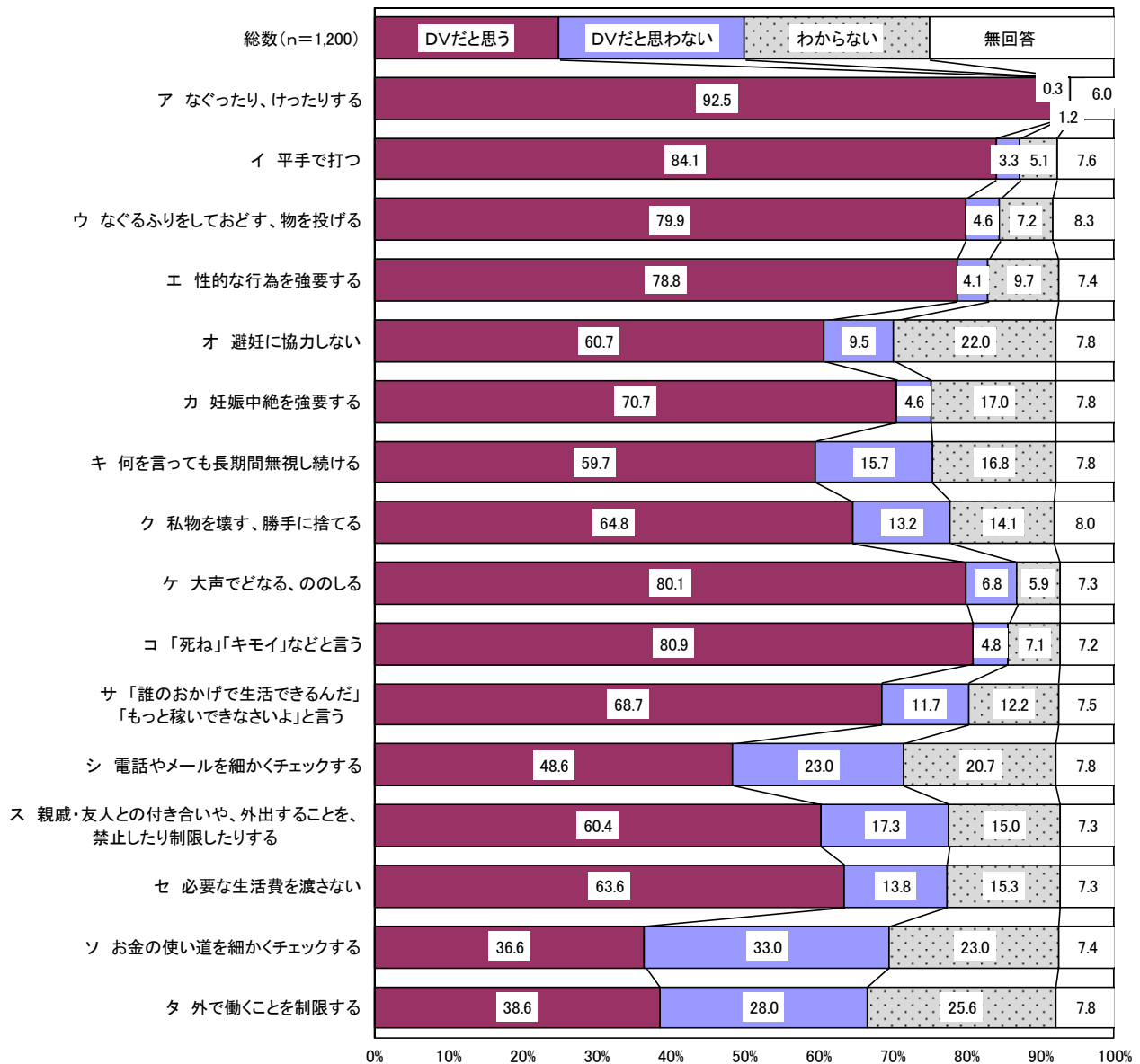
(問 20) 女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについては、「男性の抵抗感をなくすこと」「社会の中でその評価を高めること」「女性自身の抵抗感をなくすこと」の3つが男女ともに4割を超えた。

(問 21) 防災や災害対策において男女双方に配慮した対応が必要だと思うことについては、「避難所運営の責任者に男女が共に配置され、その運営体制や被災者対応に男女両方の視点が入ること」「避難所の設備(トイレ、更衣室、洗濯物干し場等)や備蓄品」の2つが男女ともに5割を超えた。「防災計画に男女両方の視点が入ること」では男性が54.9%となり、この項目のみ男性が女性を上回った。

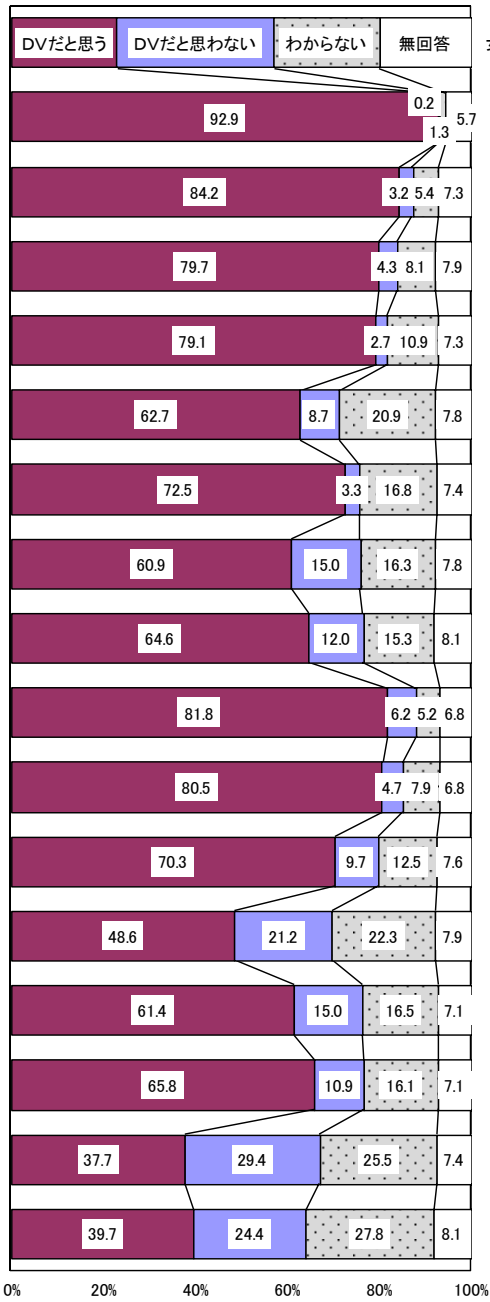
10 DV（ドメスティック・バイオレンス）についての認識

問22 配偶者や恋人からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）と言います。あなたは次のような行為をDVだと思いますか。ア～タのそれぞれ1つを選び番号を○で囲んでください。

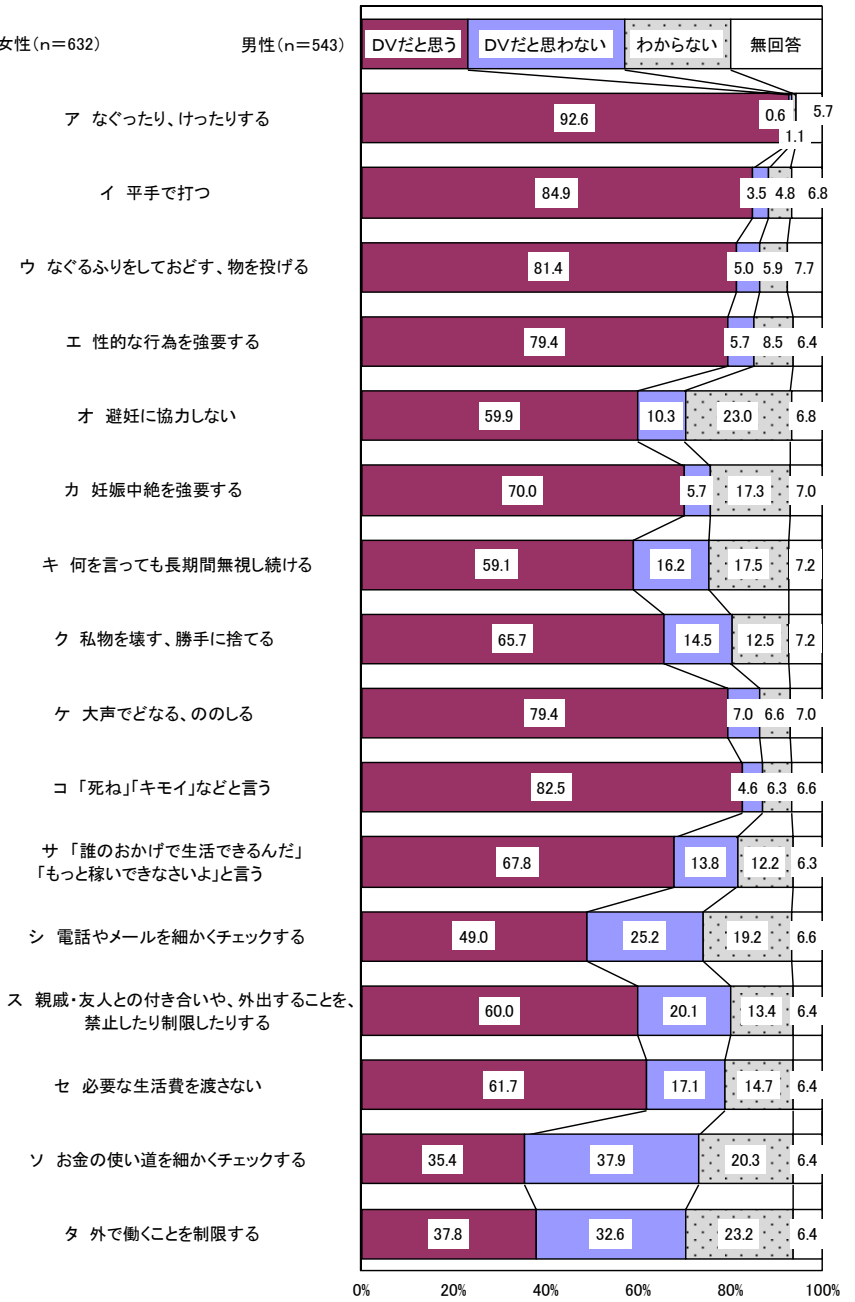
【総数】



【女性】



【男性】



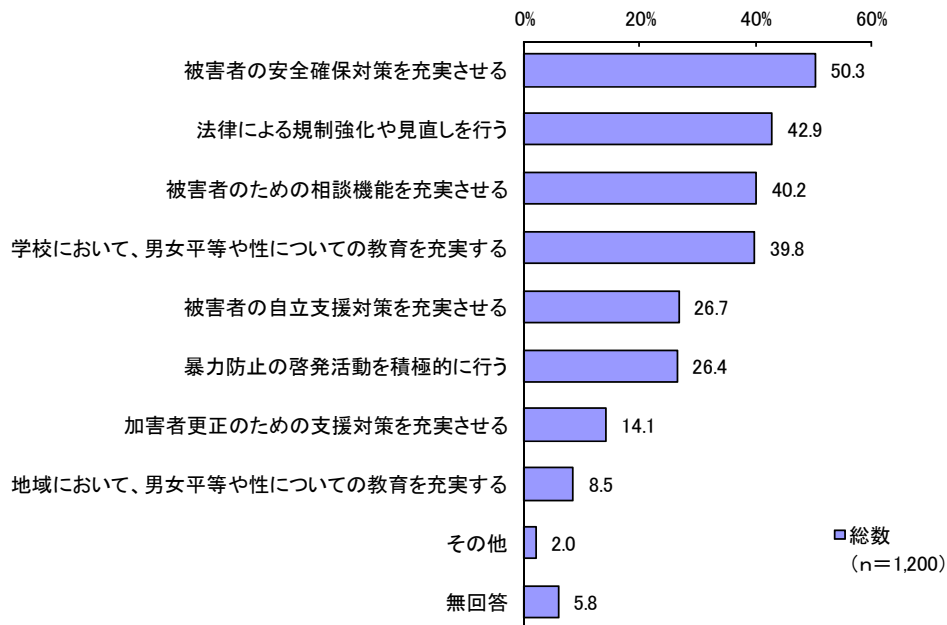
どのような行為がDVだと思うかについては、総数では全16項目において「DVだと思う」が「DVだと思わない」を上回った。しかし、「ソ お金の使い道を細かくチェックする」では男性の「DVだと思わない」が「DVだと思う」を若干ながら上回っている。

男女ともに「DVだと思う」が8割を超えたのは「ア なぐったり、けったりする」「イ 平手で打つ」「コ 『死ね』『キモイ』などという」であった。一方、「DVだと思わない」は、男女とも割合の高い順に「ソ お金の使い道を細かくチェックする」「タ 外で働くことを制限する」「シ 電話やメールを細かくチェックする」となっている。

また、「イ 平手で打つ」「ウ なぐるふりをしておどす、物を投げる」「エ 性的な行為を強要する」「ク 私物を壊す、勝手に捨てる」「コ 『死ね』『キモイ』などと言う」「シ 電話やメールを細かくチェックする」の6項目においては、僅かであるものの「DVだと思う」とした女性の割合が男性よりも低くなった。

11 DV等の対策で必要なこと

問23 あなたは、パートナーからの暴力防止や被害者支援等のために、今後どのようなことが必要だと思いますか。次から3つ以内で選びあてはまる番号を○で囲んでください。



問23～問25 (p16～18) について

(問23) パートナーからの暴力防止や被害者支援等のために必要なことについては、「被害者の安全確保対策を充実させる」が最も多く、5割を超えた。

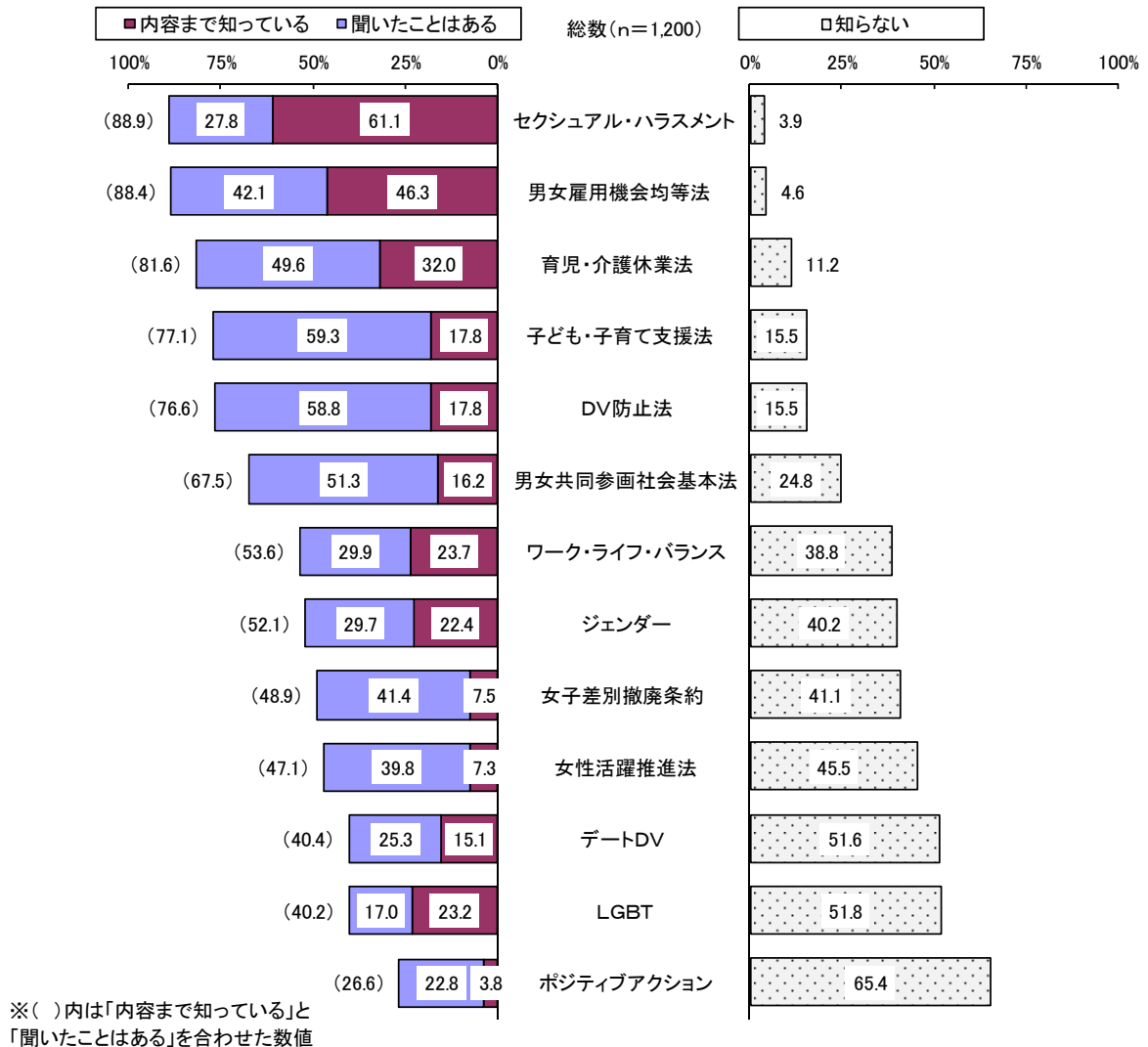
(問24) 男女共同参画に関する用語の周知度については、「内容まで知っている」と「聞いたことはある」の合計が8割を超えたのは高い順に「セクシュアル・ハラスメント」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」である。一方、「デートDV」「LGBT」「ポジティブアクション」については5割以上が「知らない」と答えている。平成27年8月に成立した「女性活躍推進法」については「内容まで知っている」と「聞いたことはある」の合計が47.1%と、5割以下にとどまった。

(問24の続き) 市の取り組みについては、最も周知度が高かったのは「我孫子市男女共同参画条例」であるが、「内容まで知っている」と「聞いたことはある」の合計は29.8%にとどまり、全ての項目において3割を下回った。

(問25) 我孫子市の男女共同参画を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思うかについては、「男女が共に仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策の充実」が58.8%で最も高い。次いで「男女共同参画に関する広報など啓発の推進」が48.2%となった。

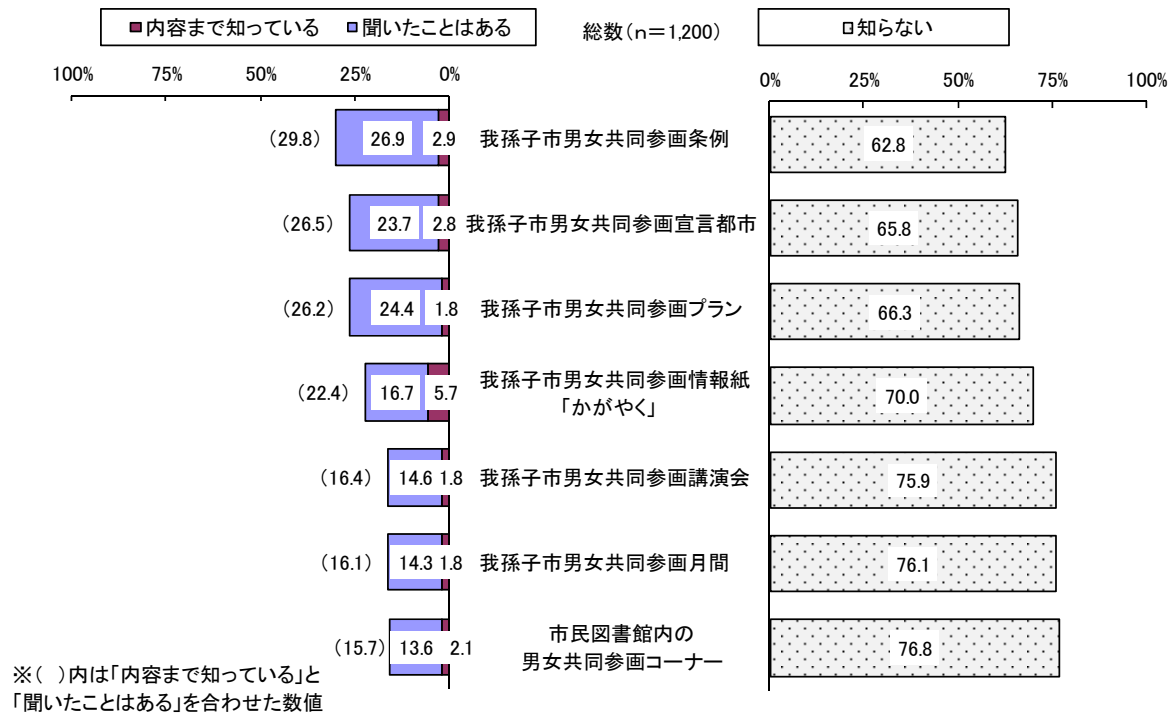
12 男女共同参画に関する用語の周知度

問 2 4 あなたは、次のことばを見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれ1つを選び番号を○で囲んでください。



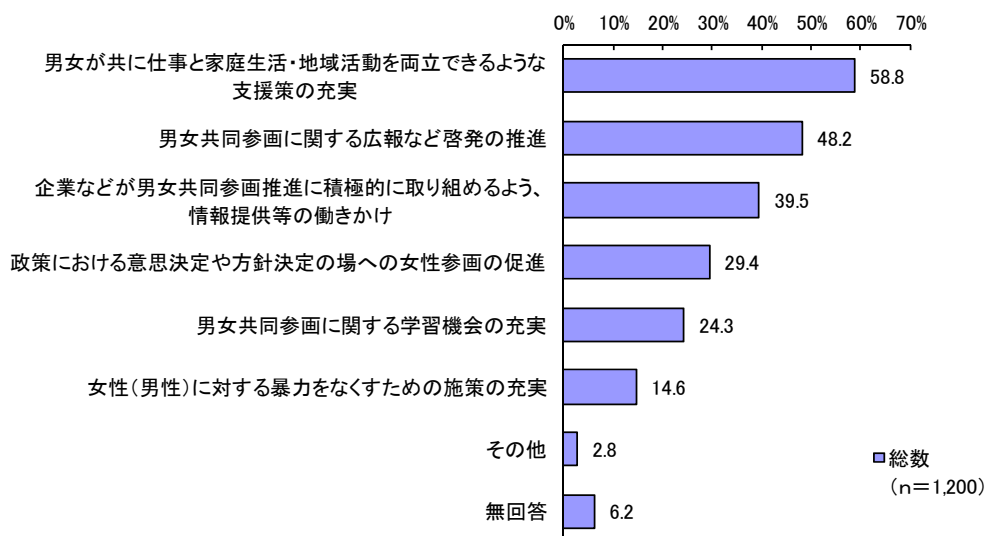
13 市の取り組みについての周知度

(問24の続き)



14 市が取り組んでいくべきこと

問25 我孫子市の男女共同参画を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次から3つ以内で選び番号を○で囲んでください。



**我孫子市男女共同参画に関する調査
報告書**

平成30年3月

我孫子市総務部秘書広報課男女共同参画室

〒270-1192 千葉県我孫子市我孫子1858番地
電話 04-7185-1752

